

科目名 / Subject	データサイエンス概論A (日本語-1) / Introduction to Data Science A (Japanese-1)
時間割コード / Course Code	T103J-01 / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Spring
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Spring / Spring Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	必修 / Compulsory
曜日・時限 / Day / Period	月 / Mon 3, 月 / Mon 4
教室 / Room	教室 814 / Classroom 814
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	森 俊樹 / MORI Toshiki
科目区分 / Course Category	基本ツール科目 ICT・データサイエンス
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 俊樹 / MORI Toshiki (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	別途教員へ確認すること。
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	toshiki.mori@eikei.ac.jp (森)
授業概要 (学習内容) と方法 / Course description and Methods	<p>In recent years, various data has been collected and accumulated via the Internet. In addition, large-scale data called big data is being used. In this course, students will learn how to handle and process data. You will learn how and when to perform the analysis while actually processing the data using statistical analysis software (such as Excel), and how to use the results.</p> <p>(和訳：近年、様々なデータがインターネットを介して収集され、蓄積されている。また、ビッグデータと呼ばれる大規模なデータが活用されるようになっている。本科目では、データの扱い方や処理の方法について学ぶ。統計分析ソフト (Excel等) を用いてデータ処理を実際に行いながら、どのような場合にどのような分析を行えばよいのか、またその結果をどのように活用すべきかについて学ぶ。)</p>
教育目標 (科目のねらい) / Aims of the Course	<p>Students in this subject:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cultivate the ability to collect necessary data for data analysis.</li> <li>• Understand the statistical basis.</li> <li>• Understand the basics of machine learning.</li> </ul> <p>(和訳：この科目において受講生は：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• データ分析のために必要なデータを収集する能力を培う。</li> <li>• 統計的な基礎を理解する。</li> <li>• 機械学習の基礎を理解する。)</li> </ul> <p>Through the above, the student will acquire the competencies described in the attachment "Correspondence between Competencies and Subjects". (和訳：上記を通じて、別紙「コンピテンシーと科目との対応」に記載されたコンピテンシーを獲得する。)</p>
教科書 / Textbooks	特に定めないが、必要な事前学習用の資料を全ての回で配布する。教科書は教員が自作した資料を用いる。事前にポータルサイトで配布する。
教科書 (続き) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	なし None

<p>参考書 / Reference Materials</p>	<p>北川源四郎, 竹村彰通 編, "教養としてのデータサイエンス", 講談社. (2021) Others will be introduced and distributed during the class by the lecturer. ( そのほかは授業中に紹介・配布する。 )</p>
<p>参考書 ( 続き ) / Other Reference Materials</p>	
<p>履修条件 / Prerequisite(s)</p>	
<p>関連項目 / Related Subject</p>	<p>Introduction to Data Science B, Data Visualization Method, Data Analysis and Statistical modeling, Introduction to Artificial Intelligence, Data Science Practice, AI Business Utilization ( データサイエンス概論B , データ可視化法 , データ分析と統計モデリング , 人工知能概論 , データサイエンス実践論 , AIビジネス活用論 )</p>
<p>注意事項 / Remarks</p>	
<p>備考 / Additional Information</p>	<p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業における定量的プロジェクト管理技術、ソフトウェア検証技術、AIの品質保証などの実務経験を有する教員が、その経験を活かして、データの扱い方や処理の方法について学ぶ授業を行う。</p>

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	データサイエンスとは？	データサイエンスをとりまく社会状況、データを扱う上での注意事項などについて学ぶ。	森 + 河村
2	データサイエンスとは？	データサイエンスをとりまく社会状況、データを扱う上での注意事項などについて学ぶ。	森 + 河村
3	基本的なデータリテラシー (1)	データの分類、1変量データの集計、基本統計量、分布と確率について学ぶ。	森
4	基本的なデータリテラシー (1)	データの分類、1変量データの集計、基本統計量、分布と確率について学ぶ。	森
5	基本的なデータリテラシー (2)	2変量データの集計、多変量データの集計、アンケート調査について学ぶ。	森
6	基本的なデータリテラシー (2)	2変量データの集計、多変量データの集計、アンケート調査について学ぶ。	森
7	データの可視化	Excelを用いたさまざまなグラフの作成方法について学ぶ。	森
8	データの可視化	Excelを用いたさまざまなグラフの作成方法について学ぶ。	森
9	推測統計の基礎、回帰分析	推測統計の基礎、相関係数、Excelを用いた単回帰分析、重回帰分析について学ぶ。	森
10	推測統計の基礎、回帰分析	推測統計の基礎、相関係数、Excelを用いた単回帰分析、重回帰分析について学ぶ。	森
11	機械学習の基礎	機械学習の基礎を学ぶと共に、機械学習ツール Weka を用いた実習を行う。	森
12	機械学習の基礎	機械学習の基礎を学ぶと共に、機械学習ツール Weka を用いた実習を行う。	森
13	最終発表	これまでに習ったことを活用して、最終発表を実施する。	森
14	最終発表	これまでに習ったことを活用して、最終	森

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

<p>成績評価方法 / Evaluation Methods</p>	<p>Class attendance and contribution (授業への出席と貢献)</p>	<p>Group exercises and homeworks (グループ演習と宿題)</p>	<p>Final report and presentation (最終レポートと発表)</p>			
<p>評価基準 / Evaluation Criteria</p>	<p>Attendance in class, frequency of questions and opinions, active participation in discussions, etc. (授業への出席、質問や意見などの発言の頻度、議論への参加の積極さ、など.)</p>	<p>Quality of group exercise and homework deliverables, contribution to group work, etc. (グループ演習や宿題の成果物の質、グループ作業への貢献度、など)</p>	<p>Quality of final report and presentation materials, clarity of presentation, active participation in final presentation, etc. (最終レポートおよび発表資料の質、発表のわかりやすさ、最終発表会への参加の積極さ、など)</p>			
<p>成績評価割合 / Pct.</p>	<p>100%</p>	<p>36%</p>	<p>24%</p>	<p>40%</p>		

科目名 / Subject	データサイエンス概論B (日本語) / Introduction to Data Science B ( Japanese )
時間割コード / Course Code	T204J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Winter
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Winter / Winter Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	月 / Mon 3, 月 / Mon 4
教室 / Room	教室 803 / Classroom 803
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	森 俊樹 / MORI Toshiki
科目区分 / Course Category	基本ツール科目 ICT・データサイエンス
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 俊樹 / MORI Toshiki ( ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course )
オフィスアワー / Office Hour	別途教員へ確認すること。 Please check with the faculty.
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	-
授業概要 (学習内容) と方法 / Course description and Methods	In recent years, various data have been collected and accumulated via the Internet. In addition, large-scale data called big data is being used. In this course, based on the content of learning from "Introduction to DataScience A," students learn the mathematical methodology and acquire how to handle and process practicable data, including open data and benchmark data. In addition, students learn what kind of analysis should be performed and how to use the results while actually performing more advanced data processing using statistical analysis software such as Python. 近年、様々なデータがインターネットを介して収集され、蓄積されている。また、ビックデータと呼ばれる大規模なデータが活用されるようになってきている。本科目では、データサイエンス概論Aの学修内容を踏まえ、より数理的な方法を学び、オープンデータやベンチマークデータなど実用可能なデータの扱い方や処理の方法について学ぶ。統計分析ソフト (Python等) を用いて、より高度なデータ処理を実際に行いながら、どのような場合にどのような分析を行えばよいのか、またその結果をどのように活用すべきかについて学ぶ。
教育目標 (科目のねらい) / Aims of the Course	The goals of this course are: <ul style="list-style-type: none"> <li>・ To understand a series of data science processes such as data aggregation, analysis, and reporting.</li> <li>・ To be able to practice advanced data analysis such as statistical analysis and machine learning using Python, etc.</li> </ul> ( ・データ集計、分析、レポートニングなど、データサイエンスの一連のプロセスについて理解すること。 ・ Python等を用いて、統計分析や機械学習などによる高度なデータ分析を実践できるようになること。 ) Through the above, the student will acquire the competencies described in the attachment "Correspondence between Competencies and Subjects". (和訳：上記を通じて、別紙「コンピテンシーと科目との対応」に記載されたコンピテンシーを獲得する。)
教科書 / Textbooks	No specific textbooks. The materials prepared by the instructor will be distributed at all sessions. (特に定めませんが、教員が作成した資料を全ての回で配布する。)
教科書 (続き) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	なし None

<p>参考書 / Reference Materials</p>	<p>Bill Lubanovic, “ Introducing Python: Modern Computing in Simple Packages ” , 2nd ed., O ’ Reilly (2019) ( 入門 Python 3, 第2版 )  Wes McKinney, “ Python for Data Analysis: Data Wrangling with pandas, NumPy, and Jupyter ” , 3rd ed., O ’ Reilly (2022) ( Python によるデータ分析入門, 第3版 )  Andreas Muller and Sarah Guido, “ Introduction to Machine Learning with Python: A Guide to Data Scientists ” , O ’ Reilly (2016) ( Pythonではじめる機械学習 )  Others will be introduced during the class by the lecturer. ( そのほかは授業中に紹介する。 )</p>
<p>参考書 ( 続き ) / Other Reference Materials</p>	
<p>履修条件 / Prerequisite(s)</p>	<p>It is recommended that you take Essential Programming and have knowledge and skills in Python programming. ( プログラミング入門を履修し、Pythonプログラミングの知識とスキルをもっていることが望まれる。 )</p>
<p>関連項目 / Related Subject</p>	<p>Introduction to Data Science A, Data Visualization Method, Essential Programming ( データサイエンス概論A , データ可視化法 , プログラミング入門 )</p>
<p>注意事項 / Remarks</p>	<p>N/A ( 特になし )</p>
<p>備考 / Additional Information</p>	<p>【実務経験を活かした実践的な教育について】  企業における定量的プロジェクト管理技術、ソフトウェア検証技術、AIの品質保証などの実務経験を有する教員が、その経験を活かして、人工知能が人との接点をもつ場面における社会的影響を考え、人類が人工知能を活用する際の責務について考察する授業を行う</p>

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	Python の復習 (1)	Python のデータ構造、制御構造、関数などを理解し、自分でプログラミングできるようにする。	森
2	Python の復習 (2)	Python のデータ構造、制御構造、関数などを理解し、自分でプログラミングできるようにする。	森
3	データの収集と操作 (1)	NumPy、Pandas によるデータ操作、Webスクレイピングについて学ぶ。	森
4	データの収集と操作 (2)	NumPy、Pandas によるデータ操作、Webスクレイピングについて学ぶ。	森
5	データの可視化 (1)	Matplotlib、Seabornによるデータ可視化方法について学ぶ。	森
6	データの可視化 (2)	Matplotlib、Seabornによるデータ可視化方法について学ぶ。	森
7	統計学 (1)	記述統計、推測統計、回帰分析の概要と Python による実装について学ぶ。	森
8	統計学 (2)	記述統計、推測統計、回帰分析の概要と Python による実装について学ぶ。	森
9	ソフトウェア工学 (1)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。	森 + ゲスト
10	ソフトウェア工学 (2)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。	森 + ゲスト
11	機械学習・深層学習 (1)	scikit-learnを用いた教師あり学習、深層学習の実施方法について学ぶ。	森
12	機械学習・深層学習 (2)	scikit-learnを用いた教師あり学習、深層学習の実施方法について学ぶ。	森
13	最終発表 (1)	最終レポートの内容を発表する。	森
14	最終発表 (2)	最終レポートの内容を発表する。	森

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

<p>成績評価方法 / Evaluation Methods</p>		<p>Class attendance and contribution (授業への出席と貢献)</p>	<p>Group exercises and homeworks (グループ演習と宿題)</p>	<p>Final presentation (最終発表)</p>			
<p>評価基準 / Evaluation Criteria</p>		<p>Attendance in class, frequency of questions and opinions, active participation in discussions, etc. (授業への出席、質問や意見などの発言の頻度、議論への参加の積極さ、など.)</p>	<p>Quality of group exercise and homework deliverables, clarity of presentation, contribution to group work, etc. (グループ演習や宿題の成果物の質、グループ作業への貢献度、など)</p>	<p>Quality of final presentation materials, clarity of presentation, active participation in final presentation, etc. (最終発表資料の質、発表のわかりやすさ、最終発表会への参加の積極さ、など)</p>			
<p>成績評価割合 / Pct.</p>	<p>100%</p>	<p>36%</p>	<p>24%</p>	<p>40%</p>			

科目名 / Subject	デザイン思考・システム思考（日本語-1） / Design Thinking, System Thinking ( Japanese-1 )
時間割コード / Course Code	T122J-01 / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Autumn
開講学年 / Year	1,2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Autumn / Autumn Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	必修 / Compulsory
曜日・時限 / Day / Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
教室 / Room	教室 703 / Classroom 703
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu
科目区分 / Course Category	基本ツール科目 思考系
担当教員名 / Instructor ( 担当教員所属名 / Affiliation )	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu ( ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course )
オフィスアワー / Office Hour	メールにてご連絡を下さい。面談日程を調整致します。 お気軽にお声がけ下さい。
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	ysoda@eikei.ac.jp 研究室722/ Faculty Office 722
授業概要（学習内容）と方法 / Course description and Methods	Design thinking and system thinking is a skill that everyone needs to find and solve problems. In this course, students will understand the basic concept of design thinking and system thinking. Students understand the basic tools and techniques of both thoughts and learn through exercises. This course consists of a basic concept, a lecture of tools, exercises such as individual work and group work based on it, and finally presentation and report. Students are encouraged to actively participate in this course. ( デザイン思考とシステム思考は、問題発見や問題解決するために必要なスキルである。本科目では、デザイン思考とシステム思考の基本的な考え方を理解する。また、両思考の基本的なツールや技法を理解するとともに、演習を通じて習得する。 本科目は、基本的な考え方とツールのレクチャー、それに基づく個人ワークやグループワーク等の演習、そして最後にプレゼンテーションおよびレポートで構成される。受講者は、積極的にこの科目に参加することが望まれる。 )
教育目標（科目のねらい） / Aims of the Course	This course aims to help students acquire the following knowledge and attitudes based on them. (1) Overview of Design Thinking, basic concepts, tools (2) Overview of System Thinking, basic concepts, tools (3) Problem identification and resolution process ( 本科目は、学生たちが以下のような知識とこれらにもとづく態度を獲得することを目的とする。 ) (1)デザイン思考の概要、基本的な考え方、各種ツール (2)システム思考の概要、基本的な考え方、各種ツール (3)問題発見と解決のプロセス
教科書 / Textbooks	Not specified. ( 指定しない。 )
教科書（続き） / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	Not specified. ( 指定しない。 )

参考書 / Reference Materials	Lecturers will introduce during class. (講師が授業中に紹介する。)
参考書 (続き) / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	Nothing in particular. (特になし。)
関連項目 / Related Subject	
注意事項 / Remarks	
備考 / Additional Information	【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業における事業開発・経営戦略・コミュニケーション戦略などの実務経験を有する教員が、その経験を活かして、デザイン思考とシステム思考の基本的考え方、ツール・技法の理解と、演習を通じた習得を目指す授業を行う

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	Introduction to the course(イントロダクション)	Students understand the outline of the course. (本コースの概要や進め方を理解する)	
2	Overview of Design Thinking and System Thinking (デザイン思考とシステム思考の概要)	Students learn the concept of system thinking and design thinking. (システム思考とデザイン思考の概念を学ぶ)	
3	Tools and techniques 1 (ツールと技法1)	Students learn how to use causal loop diagrams. (因果関係ループ図の使い方を学ぶ)	
4	Group exercise 1 (グループ演習1)	Students try to analyze a social problem using a causal loop diagram. (因果関係ループ図を使い社会問題の分析を試みる)	
5	Tools and techniques 2 (ツールと技法2)	Students learn how to observe and interview users. (ユーザー観察とインタビューのやり方を学ぶ)	
6	Group exercise 2 (グループ演習2)	Students try to do user observation and interviews. (ユーザー観察とインタビューを試みる)	
7	Tools and techniques 3 (ツールと技法3)	Students learn methods to analyze users. (ツールと技法3:ユーザー分析のやり方を学ぶ)	
8	Group exercise 3 (グループ演習3)	Students try to find business opportunities based on user analysis. (ユーザー分析に基づき事業機会の発見を試みる)	
9	Tools and techniques 4 (ツールと技法4)	Students learn methods of idea generation. (アイデア発想のやり方を学ぶ)	
10	Group exercise 4 (グループ演習4)	Students try to develop a business concept. (事業コンセプト開発を試みる)	
11	Tools and techniques 5 (ツールと技法5)	Students learn how to use CVCA (CVCAの使い方を学ぶ)	
12	Group exercise 5 (グループ演習5)	Students try to visualize the business model using CVCA. (CVCAを用いてビジネスモデルの可視化を試みる)	
13	Presentation	Students will present solutions to	

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
13	(プレゼンテーション)	problems using design thinking and systems thinking. (学生はデザイン思考とシステム思考を用いて課題の解決策をプレゼンテーションする)	
14	Summary (まとめ)	Students reflect on the entirety of this course. (この授業の全体を振り返る)	

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Class participation (授業への貢献)	Presentation (プレゼンテーション)	Report (レポート)			
評価基準 / Evaluation Criteria	Comments and questions, active participation in group work, etc. (発言, 質問の積極さ, グループワークへの参画, など)	Clarity and completeness of the presentation, etc. (プレゼンのわかりやすさや完成度, など)	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. (視点の多角さ, 論理的構成, 文献引用, 文章の体裁の適切さ, 結論の説得力, など)			
成績評価割合 / Pct.	100%	30%	30%	40%		

科目名 / Subject	プロジェクトマネジメント(日本語) / Project Management ( Japanese )
時間割コード / Course Code	T221J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Autumn
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Autumn / Autumn Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	火 / Tue 1, 火 / Tue 2
教室 / Room	教室 602, 教室 603 / Classroom 602, Classroom 603
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	瀬古 素子 / SEKO Motoko
科目区分 / Course Category	基本ツール科目 思考系
担当教員名 / Instructor ( 担当教員所属名 / Affiliation )	瀬古 素子 / SEKO Motoko ( ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course )
オフィスアワー / Office Hour	水曜日午前中またはアポイントメントにて
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	sekom@eikei.ac.jp Room 622
授業概要 ( 学習内容 ) と方法 / Course description and Methods	<p>本科目では、プロジェクトマネジメントのプロセスと知識体系を理解する。プロジェクトマネジメントのツールと技法を学び、演習により実際の問題にどう適用できるかを理解する。プロジェクト計画の流れを学び、演習により、実際の作成方法を理解する。</p> <p>本科目は、基本的な考え方とツールのレクチャー、それに基づく個人ワークやグループワーク等の演習で構成される。受講生はそれぞれ課題として、様々なツールを使って個別に仮想プロジェクトを形成していくが、卒業プロジェクトのトピックを使って自らの卒プロ内容をデザインすることも奨励される。受講者は、積極的にこの科目に参加することが望まれる。</p>
教育目標 ( 科目のねらい ) / Aims of the Course	<p>本科目は、学生たちが以下のような知識とこれらにもとづく態度を獲得することを目的とする。</p> <p>(1)プロジェクトマネジメントの概要，基本的な考え方 (2)プロジェクトマネジメントの基本的なツールと技法 (3)プロジェクト計画の流れ</p>
教科書 / Textbooks	<p>"Results-based public management: Tools for the design and implementation of public rural development programs with a project cycle approach" (2014) Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)</p> <p>Available online at: <a href="http://www.fao.org/3/a-i3937e.pdf">http://www.fao.org/3/a-i3937e.pdf</a></p>
教科書 ( 続き ) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	( 無料ダウンロードのみ )
参考書 / Reference Materials	
参考書 ( 続き ) / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	
関連項目 / Related Subject	

注意事項 / Remarks	<p>グループワークに積極的に参加すること。教科書として使用するPDF資料を各自ダウンロードしてください。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業における事業開発・経営戦略・コミュニケーション戦略などの実務経験を有する教員が、その経験を活かして、デザイン思考とシステム思考の基本的考え方、ツール・技法の理解と、演習を通じた習得を目指す授業を行う。</p>
備考 / Additional Information	

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	イントロダクション：プロジェクトマネジメントの概要	プロジェクトマネジメントの必要性と、効果的なマネジメントにより担保される成果等についてのディスカッションと認識共有	
2	基本知識：プロジェクトの企画・計画にかかる課題分析	プロブレムツリー、特製要因図などを用いた課題分析手法の実践	
3	基本知識：プロジェクトの企画・計画にかかる課題分析(2)	課題分析・プロブレムツリーから課題解決プロジェクトの形成・エントリーポイントを探る	
4	基本知識：プロジェクトの企画と論理整合性確認	プロジェクトの企画に際しての、達成目標・活動・活動手法の整合性確認ワークショップ	
5	プロジェクト演習1:ログフレーム作成	ToCセオリーオブチェンジを念頭においた、問題解決型プロジェクトのログフレーム作成グループワーク	
6	基本知識：進捗マネジメント	課題達成のための進捗モニタリングと、用いるSMART指標の設定	
7	プロジェクト演習2:進捗マネジメント指標・KPI作成	進捗モニタリング指標とKPIの違いを理解し、プロジェクト目標達成を促す指標づくり演習	
8	基本知識：品質マネジメント	品質水準の設定とマネジメント手法、信頼確保・維持のためのマネジメントに求められる姿勢	
9	基本知識：組織マネジメント	関係者分析とプロジェクト達成のためのチーム運営ディスカッション	
10	プロジェクト演習3：プロジェクト実施計画・各種マネジメント計画作成	グループワーク、ピアレビューによる企画・計画評価と改善案提案会	
11	基本知識：リスクマネジメント	プロジェクト実施に伴うリスク要因と外部要件、そのリスク回避手段のディスカッション	
12	基本知識：コミュニケーションマネジメント	効果的・マイナス効果のコミュニケーション事例分析	
13	プロジェクトマネジメントの実際：事例1 新商品開発プロジェクト	成果レベルでの成功が認められる事例からプロジェクトマネジメントの教訓・極意を抽出する	
14	まとめ	講義のまとめと振り返り	

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Class Participation (授業への貢 献)	Presentation (プレゼンテ ーション)	Final Report (期末 レポート)			
評価基準 / Evaluation Criteria	Comments and questions, active participation in group work, etc. (発言、質問 の積極さ、グ ループワーク への参画 など)	プレゼン	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. (視点の 多角さ、論理 的構成、文献 引用、文章の 体裁の適切さ 、結論の説得力 など)			
成績評価割合 / Pct.	100%	30%	40%	30%		

科目名 / Subject	ファシリテーション (日本語) / Facilitation(Japanese)
時間割コード / Course Code	T222J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Winter
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Winter / Winter Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	月 / Mon 1, 月 / Mon 2
教室 / Room	教室 703 / Classroom 703
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	瀬古 素子 / SEKO Motoko
科目区分 / Course Category	基本ツール科目 思考系
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	瀬古 素子 / SEKO Motoko (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	By appointment
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	sekom@eikei.ac.jp Room 622
授業概要 (学習内容) と方法 / Course description and Methods	<p>ファシリテーションとは、特定の集団が会議や意見交換等を通じて意思決定を行う際に、中立の立場から意見の集約を図りインクルーシブな合意形成を促す、マネジメントおよびコミュニケーション技法である。本科目ではファシリテーションのプロセスと知識体系を理解する。ファシリテーションの基本的なツールと技法を学び、演習により実際の問題にどう適用し、課題解決に活用できるかを理解する。ファシリテーションに基づくチームビルディングについて、演習を通じて習得する。チームビルディングの流れを学び、演習により、実際の進め方を理解する。</p> <p>本科目は、基本的な考え方とツールのレクチャー、それに基づく個人ワークやグループワーク等の演習 (プレゼンテーション)、最後のレポートにより構成される。受講者は、積極的にこの科目に参加することが望まれる。</p>
教育目標 (科目のねらい) / Aims of the Course	<p>本科目は、学生たちが以下のような知識とこれらにもとづく態度を獲得することを目的とする。</p> <p>(1)ファシリテーション概要、基本的な考え方 (2)ファシリテーションの基本的なツールと技法 (3)チームビルディングの流れと集団としての合意形成プロセス</p> <p>上記を通じて、別紙「コンピテンシーと科目との対応」に記載されたコンピテンシーを獲得する。</p>
教科書 / Textbooks	講義中に指定または配布する
教科書 (続き) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	購入は不要
参考書 / Reference Materials	
参考書 (続き) / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	

関連項目 / Related Subject	
注意事項 / Remarks	
備考 / Additional Information	<b>【実務経験を活かした実践的な教育について】</b> 国際機関での実務経験・国際協力専門家としての実務経験を有する教員が、その経験を活かして、多様な参加者の対話を促進し、合意形成を図る技法やチームビルディングの流れについて実践的な授業を行う。

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	イントロダクション	課題グループ形成, ゴール設定, ファシリテーションの概要、なぜファシリテーションが必要かディスカッション	
2	ファシリテーションの基礎スキル1: リーダーシップと対人関係構築	合意形成に必要なリーダーシップとその条件、会議参加者・関係者との関係構築、対話への参加促進と参加枠組み	
3	ファシリテーションの基礎スキル2: 場づくりと構造化	対話が進む・深まる物理的環境と心理的環境作り、明確な議事と達成可能な目標づくり・会議の構造化	
4	ファシリテーションの基礎スキル3: 意見集約と記録	合意形成に向けた異なる意見の中間点探し、「厄介な意見」の取り扱い、対立から対話へ、効果的な対話の記録作りとその活用、KJ法	
5	ファシリテーションの技法1: ワールドカフェ	理論編 受容型コミュニティの形成や強化に繋がる、質問で意見を引き出す、大人数ダイアログ手法	
6	ファシリテーションの技法1: ワールドカフェ	実践編 質問から引き出された対話、参加者のコミュニティから生まれた集合知の抽出と可視化の体験	
7	ファシリテーションの技法2: OST Open Space Technology	理論編 参加者が決める会議の議事進行、議事録の意義、「次のステップ」合意形成	
8	ファシリテーションの技法2: OST Open Space Technology	実践編 OST型会議参加、OSTでのファシリテーター役割、OSTの有効な活用法についてのディスカッション	
9	ファシリテーションの技法3: オンライン会議の運営・議論	理論編 オンライン会議特有のファシリテーション、会議の場設定、留意点やトラブルシューティング	
10	ファシリテーションの技法3: オンライン会議の運営・議論	実践編 多様な参加者ニーズへの対応、オンライン会議の参加者満足度をあげる工夫、ハイブリッド対応	
11	総合演習: チームビルディング	効果的なチームづくりに必要なファシリテーション、目的に応じたファシリテーション技法の選び方	
12	総合演習: コンセンサス形成	多様な意見をまとめるファシリテーション、ネゴシエーション、不満者を出さないコンセンサス形成の演習	
13	総合演習: 意見集約プロセス記録と会議報告	参加者の満足度を高める会議の終わり方・終わらせ方演習	
14	まとめ	まとめと振り返り	

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Class Participation (授業への貢献)	Presentation (プレゼンテーション)	Final Report or practical session (期末レポートまたは実技)	Assignment (課題)		
評価基準 / Evaluation Criteria	Comments and questions, active participation in group work, etc. (発言、質問の積極さ、グループワークへの参画など)	会議アイスブレイクまたはエナジャイザーの検討・実施	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. (視点の多角さ、論理的構成、文献引用、文章の体裁の適切さ、結論の説得力など)	毎週の課題における理解力、論理構成		
成績評価割合 / Pct.	100%	30%	20%	30%	20%	

科目名 / Subject	人工知能概論（日本語） / Introduction to Artificial Intelligence（Japanese）
時間割コード / Course Code	L218J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Autumn
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Autumn / Autumn Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Elective	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
教室 / Room	教室 814 / Classroom 814
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	森 俊樹 / MORI Toshiki
科目区分 / Course Category	リベラルアーツ科目 基盤科目
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	森 俊樹 / MORI Toshiki (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	教員へ別途確認すること。
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	-
授業概要（学習内容）と方法 / Course description and Methods	<p>Artificial intelligence began in the mid-20th century. Until now, innovation in science and technology has brought about various changes in our lives. While society benefits, the negative aspects also need to be considered. In this course, students will learn about the evolution and history of change in artificial intelligence, consider the social impact of artificial intelligence in situations where it comes into contact with humans from various perspectives, and consider the responsibilities of humanity when utilizing artificial intelligence.</p> <p>（人工知能は、20世紀中頃から始まったが、これまでに科学技術のイノベーションによって、我々の生活にさまざまな変革をもたらされている。社会はその恩恵を受ける一方、負の面についても検討が必要となっている。本科目では、人工知能の進化と変革の歴史を学ぶと共に、さまざまな視点から人工知能が人との接点をもつ場面における社会的影響を考え、人類が人工知能を活用する際の責務について考察する。）</p>
教育目標（科目のねらい） / Aims of the Course	<p>The goals of this course are:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• To understand the history of the development of artificial intelligence from the technical and social aspects.</li> <li>• Understand the concepts of elemental technologies used in artificial intelligence and their practical examples.</li> <li>• Recognize the current issues of artificial intelligence research and think toward realizing a society where humans and artificial intelligence coexist in the future.</li> </ul> <p>（人工知能の発展の歴史を、技術的な側面および社会的影響の側面から理解すること。  人工知能で利用される要素技術の基礎とその実用例について、その考え方を理解すること。  現状の人工知能研究の課題を認識し、将来の人間と人工知能が共存する社会の実現に向けて思索すること。）</p> <p>Through the above, the student will acquire the competencies described in the attachment "Correspondence between Competencies and Subjects". (和訳：上記を通じて、別紙「コンピテンシーと科目との対応」に記載されたコンピテンシーを獲得する。)</p>
教科書 / Textbooks	No specific textbooks. The materials prepared by the instructor will be distributed at all sessions. (特に定めませんが、教員が作成した資料を全ての回で配布する。)
教科書（続き） / Other Textbooks	

上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	なし None
参考書 / Reference Materials	Stuart Russell, Peter Norvig, “ Artificial Intelligence: A Modern Approach, 4th ed. ” , Pearson (2020).
参考書（続き） / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	
関連項目 / Related Subject	Introduction to Data Science A, Data Science Practice, AI Business Utilization（データサイエンス概論A，データサイエンス実践論，AIビジネス活用論）
注意事項 / Remarks	N/A（特になし）
備考 / Additional Information	<p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>企業における定量的プロジェクト管理技術、ソフトウェア検証技術、AIの品質保証などの実務経験を有する教員が、その経験を活かして、人工知能が人との接点をもつ場面における社会的影響を考え、人類が人工知能を活用する際の責務について考察する授業を行う</p>

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	What is Artificial Intelligence? 人工知能 (AI) とは？	Learn about the definition and history of artificial intelligence (AI). 人工知能 (AI) の定義および歴史について学ぶ。	Mori
2	What is Artificial Intelligence? 人工知能 (AI) とは？	Learn about the definition and history of artificial intelligence (AI). 人工知能 (AI) の定義および歴史について学ぶ。	Mori
3	Latest trends in AI AI の最新動向	Learn about the latest trends in AI. AI の最新動向について学ぶ。	Mori
4	Latest trends in AI AI の最新動向	Learn about the latest trends in AI. AI の最新動向について学ぶ。	Mori
5	AI and psychology AI と心理学	Consider AI from a psychological perspective. 心理学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
6	AI and psychology AI と心理学	Consider AI from a psychological perspective. 心理学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
7	AI and philosophy AI と哲学	Consider AI from a philosophical perspective. 哲学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
8	AI and philosophy AI と哲学	Consider AI from a philosophical perspective. 哲学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
9	AI and cultural anthropology AI と文化人類学	Consider AI from the perspective of cultural anthropology. 文化人類学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
10	AI and cultural anthropology AI と文化人類学	Consider AI from the perspective of cultural anthropology. 文化人類学の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
11	AI and ethics of science and technology AI と科学技術倫理	Consider AI from the perspective of ethics of science and technology. 科学技術倫理の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
12	AI and ethics of science and technology AI と科学技術倫理	Consider AI from the perspective of ethics of science and technology. 科学技術倫理の観点から AI について考察する。	Mori + Guest
13	Final presentation 最終発表	Present the contents of the final report. 最終レポートの内容を発表する。	Mori
14	Final presentation	Present the contents of the final report.	Mori

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

<p>成績評価方法 / Evaluation Methods</p>	<p>Class attendance and contribution (授業への出席と貢献)</p>	<p>Group exercises and homeworks (グループ演習と宿題)</p>	<p>Final report and presentation (最終レポートと発表)</p>			
<p>評価基準 / Evaluation Criteria</p>	<p>Attendance in class, frequency of questions and opinions, active participation in discussions, etc. (授業への出席、質問や意見などの発言の頻度、議論への参加の積極さ、など.)</p>	<p>Quality of group exercise and homework deliverables, contribution to group work, etc. (グループ演習や宿題の成果物の質、グループ作業への貢献度、など)</p>	<p>Quality of final report and presentation materials, clarity of presentation, active participation in final presentation, etc. (最終レポートおよび発表資料の質、発表のわかりやすさ、最終発表会への参加の積極さ、など)</p>			
<p>成績評価割合 / Pct.</p>	<p>100%</p>	<p>36%</p>	<p>24%</p>	<p>40%</p>		

科目名 / Subject	多文化共生社会論(日本語) / Studies in Diversity and Multiculturalism(Japanese)
時間割コード / Course Code	L312J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Summer
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Summer / Summer Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
教室 / Room	PBL演習室 301, PBL演習室 302 / Project-Based Learning Room 301, Project-Based Learning Room 302
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	瀬古 素子 / SEKO Motoko
科目区分 / Course Category	リベラルアーツ科目 発展科目
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	瀬古 素子 / SEKO Motoko (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	アポイントメントによる
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	sekom@eikei.ac.jp Room 622
授業概要(学習内容)と方法 / Course description and Methods	<p>グローバル化や少子高齢化などが進む現代社会では、国籍や性別、年齢やセクシュアリティ、障がいの有無や信仰などに関係なく多様な人が安心安全に暮らし、活躍できる社会を作っていくことが不可欠である。また世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会を作るためにもジェンダー平等や国内外での不平等の解消が必要とされ、SDGsのゴールにも含まれている。本科目では個人やコミュニティ(当事者の集団)が持つダイバーシティ(多様性)とその多様性を生み出す背景を理解した上で、現代社会の中でそれらの多様性がどのような課題の原因となり、また解決の糸口となり得るかを考え、多文化共生社会の形成のために必要な視点と基礎知識を得ることを目的とする。</p> <p>本科目はショートレクチャー、アサインメント(リーディング、リサーチ)、グループディスカッション、レポートなどで構成される。第3回目(第2週)以降、受講者は前週に講師から指定された文献や映像資料を元に、指名された班がレジユメを用意し、内容を要約し、疑問点や論点を提示する。その後クラス全体でグループディスカッションを行う。講師は必要に応じて論点を解説し、当事者団体等からの外部講師招聘も積極的に行う。また課題(グループワーク)として当事者インタビューを実施し、第9回目の授業では異なるアイデンティティを持つ集団が関心を持つ社会課題について、当事者視点を共有するための報告を行い、当事者コミュニティ、NPO、企業、行政などと連携しながら、どのようにして多様性を受容し、多文化共生社会を形成するか、という後半の議論に繋げる。</p>
教育目標(科目のねらい) / Aims of the Course	<p>和訳：本科目ではジェンダーやダイバーシティ、インクルージョンの視点から現代の社会課題を理解し、様々な社会経済問題の解決にあたって不可欠となる個の尊重や男女共同参画、多様性受容などの考え方を体得することを目指す。到達点は(1)ジェンダー、ダイバーシティ、アイデンティティ、多文化主義、多文化共生、インクルーシブネスなどの視点や法的根拠を理解し、(2)多文化共生・多様性受容の視点をを用いたダイバーシティ推進や、他の社会課題の解決案を考え提案ができるようになること、とする。</p>
教科書 / Textbooks	講義中にオンライン資料を指定または配布する。
教科書(続き) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	購入は不要。

参考書 / Reference Materials	「はじめてのジェンダー論」(加藤秀一,有斐閣ストゥディア) 「当事者主権」(中西正司,上野千鶴子,岩波新書)
参考書(続き) / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	特になし。事前に社会学概論やフィールドワーク研究を履修していることが望ましい。
関連項目 / Related Subject	Cross-Cultural Studies, Introduction to Cultural Anthropology (異文化論,文化人類学概論)
注意事項 / Remarks	本科目では授業の中でも個人・集団の多様性を尊重し,多文化共生社会を实践する。個人の思想や主義主張は否定しないものの,様々な属性を持つ人々との交流も前提としており,授業内での差別的発言や各種ハラスメントについてはゼロ・トレランスの方針を取る。
備考 / Additional Information	【実務経験を活かした実践的な教育について】 国連などの国際機関における実務経験を有する教員が,その経験を活かし,多文化共生・多様性受容の考え方の理解と,それらの視点によるダイバーシティ推進その他社会課題の解決について考える授業を行う。

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	ガイダンス 1	科目概要の説明, 自己紹介, 班分け, クイズ, 教材配布, 多文化共生論の概要など	
2	ガイダンス2	講師によるジェンダーやダイバーシティ (多様性) にかかる国内外の社会課題についての小講義。受講者によるグループディスカッションとグループワーク (当事者インタビュー等) 準備作業	
3	多様性と基本的人権	人の属性に基づく差別が禁止される法的根拠を知る 世界人権宣言 (1948), インクルージョン, SDGs, アイデンティティ, 内包する偏見, マイノリティ, Zero Tolerance	
4	ジェンダー1	私たちに「植え付けられた」ジェンダー概念を掘り起こす 性と性差と性別役割, 平等と公正, #MeToo, フェミニズム, 男女共同参画	
5	ダイバーシティ1	「私」を構成する様々な特性・社会にあるダイバーシティを理解・認知する 人種・民族, 性的指向・LGBTQ+, 障がい, 宗教	
6	社会課題と当事者参加	ダイバーシティに基づく社会変革を考察する コミュニティ形成, 市民運動, Nothing about us without us, アイデンティティ・ポリティクス, メディアと多文化	
7	貧困とダイバーシティから考えるインターセクショナルリティ	社会的弱者を生みやすい属性と、その背景を探るディスカッション 自己責任と多様性, 貧困の女性化, 差別と貧困	
8	グローバリゼーションと多文化共生	世界で起きているインクルージョンや差別についての現状を考え討論する 外国人労働者, 難民支援, ブルカ禁止法	
9	グループワーク発表	当事者 (個人・コミュニティ) インタビューを元にした当事者視点での社会課題分析の報告, パネルディスカッション	
10	ジェンダー2	ジェンダー不平等が国を滅ぼす可能性を探る 家族・結婚・家父長制, 少子化とジェンダー	
11	ダイバーシティ2	ダイバーシティ推進方法コンテスト (グループワーク) アファーマティブアクション/パリティ法, トークニズム, 分人主義	
12	社会課題とダイバーシティ	サステナブルな社会変革運動についての討論 当事者運動, パーンアウト, 企業や行政の役割	
13	超高齢化社会とダイバーシティ	喫緊の課題解決のための多様性受容とは 福祉政策の多様性配慮, 移民政策	
14	まとめ	多様性受容社会とは (個人またはグループ発表)	

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Presentation (プレゼンテーション)	Report (レポート)	Class Participation (授業への貢献)	Final Report (期末レポート)		
評価基準 / Evaluation Criteria	レジュメ作成における要約, 疑問点・論点の提示, 文献引用の適切さ, プレゼンテーションのわかりやすさ, 他受講生からの評価, など	インタビューレポート: 当事者の意見を要約する際の論点整理の適切さ, パネルディスカッションでの説得力・コミュニケーション (eloquence), 質問の適切さ, など	Comments and questions, active participation in group work, etc. (発言、質問の積極さ、グループワークへの参画 など)	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. (視点の多角さ、論理的構成、文献引用、文章の体裁の適切さ、結論の説得力 など)		
成績評価割合 / Pct.	100%	25%	25%	30%	20%	

科目名 / Subject	地域協働論(日本語) / Regional Collaboration(Japanese)
時間割コード / Course Code	L322J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Winter
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Winter / Winter Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	水 / Wed 1, 水 / Wed 2
教室 / Room	教室 503 / Classroom 503
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu
科目区分 / Course Category	リベラルアーツ科目 発展科目
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	Please contact me by e-mail. I will arrange a date to meet with you. メールにてご連絡を下さい。面談日程を調整致します。
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	ysoda@eikei.ac.jp Faculty Office 722/研究室722
授業概要(学習内容)と方法 / Course description and Methods	<p>In this course, students understand regional collaboration policies, especially in Japan. Students grasp the actual situation and trends of regional collaboration in the region through examples. The purpose of this course is to acquire basic knowledge surrounding community collaboration and to give students opinions on participation in the community based on their own interests. This course consists of short lectures, reading assignments, group discussions based on them, and a final report. Students are encouraged to actively participate in this course.</p> <p>本科目では、地域協働政策について、特に日本における現状を理解する。地域における地域協働の実態や傾向について事例を通じて捉える。</p> <p>それにより、地域協働を取り巻く基本的な知識の習得とともに、学生自らが自身の関心に基づき、地域への参加について自分の意見を言えることを目指す。</p> <p>本科目は、ショートレクチャーやリーディングアサインメント、それらに基づくグループディスカッション、そして最終レポートで構成される。受講者は、積極的にこの科目に参加することが望まれる。</p>
教育目標(科目のねらい) / Aims of the Course	<p>This course aims to help students acquire the following knowledge and attitudes based on them.</p> <p>(1) Important keywords for regional collaboration (2) Important keywords for regional collaboration policy (3) Examples and trends of regional collaboration</p> <p>本科目は、学生たちが以下のような知識とこれらにもとづく態度を獲得することを目的とする。</p> <p>(1)地域協働を捉える上で重要キーワード (2)地域協働政策を捉える上で重要なキーワード (3)地域協働の事例や傾向</p>
教科書 / Textbooks	Not specified. 指定しない。
教科書(続き) / Other Textbooks	

上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	Not specified. 指定しない。
参考書 / Reference Materials	This instructor will introduce during class. 講師が授業中に紹介する。  Richard P. Chait, William P. Ryan, Barbara E. Taylor (2008) “ Governance as Leadership: Reframing the Work of Nonprofit Boards ”
参考書（続き） / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	Nothing in particular. 特になし。
関連項目 / Related Subject	
注意事項 / Remarks	
備考 / Additional Information	【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業、行政、NPO法人代表、地域活性化伝道師などの実務経験を有する教員が、その経験を活かし、地域協働の理念や実態、地域協働政策等について、事例を通して学び考える授業を展開する。

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考（担当教員名等） / Remarks(Lecturers)
1	Introduction to the course イントロダクション	Students understand the outline of the course. In particular, students understand how to deepen their interest in regional problems and think about citizen participation, and at that time confirm the principles of the SDGs. 本コースの概要や進め方を理解する。特に、地域問題への関心を深め、市民参加について理解し、その際にSDGsの理念を確認する。	
2	NPOs and their role NPOとその役割	Students understand the role of NPOs in society. NPOの社会における役割を理解する。	
3	Regional collaboration policy 地域協働政策	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
4	Regional collaboration policy 地域協働政策	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
5	Community development まちづくり	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
6	Community development まちづくり	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
7	Social Welfare 福祉	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
8	Social Welfare 福祉	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
9	Environment 環境	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
10	Environment 環境	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
11	General exercise 総合演習	Students discover regional problems. 地域課題を発見する。	
12	General exercise 総合演習	Students analyze regional problems. 地域課題を分析する。	
13	General exercise 総合演習	Students solve regional problems. 地域課題を解決する。	
14	Summary まとめ	Students look back on this course and share their learning. 全体の振り返りと学びの共有。	

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
14	Summary まとめ		

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Class participation 授業への貢献	Presentation プレゼンテーション	Report 期末レポート			
評価基準 / Evaluation Criteria	Comments and questions, active participation in group work, etc. 発言, 質問の積極さ, グループワークへの参画, など	Clarity and completeness of the presentation, etc. プレゼンのわかりやすさや完成度, など	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. 視点の多角さ, 論理的構成, 文献引用, 文章の体裁の適切さ, 結論の説得力, など。			
成績評価割合 / Pct.	100%	30%	30%	40%		

科目名 / Subject	地域活性論(日本語) / Regional Revitalization(Japanese)
時間割コード / Course Code	L382J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Summer
開講学年 / Year	2,3,4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Summer / Summer Quarter
必修 / 選択 / Compulsory/Elective	選択 / Elective
曜日・時限 / Day / Period	木 / Thu 1, 木 / Thu 2
教室 / Room	PBL演習室 301, PBL演習室 302 / Project-Based Learning Room 301, Project-Based Learning Room 302
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu
科目区分 / Course Category	リベラルアーツ科目 発展科目
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	早田 吉伸 / SODA Yoshinobu ( ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course )
オフィスアワー / Office Hour	Please contact me by e-mail. I will arrange a date to meet with you. メールにてご連絡を下さい。面談日程を調整致します。
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	ysoda@eikei.ac.jp Faculty Office 722/研究室722
授業概要 ( 学習内容 ) と方法 / Course description and Methods	<p>In this course, students will get an overview of regional industry and regional policies, especially in Japan, which are important themes for regional revitalization. Students will understand the changes in local business against the background of digital trends in recent years through examples. Students understand innovation and new business creation based on local characteristics.</p> <p>The purpose of this course is to acquire basic knowledge surrounding the local industry and to give students opinions on local business based on their own interests.</p> <p>This course consists of short lectures, reading assignments, group discussions based on them, and a final report. Students are encouraged to actively participate in this course.</p> <p>本科目では、地域産業とそれを取り巻く地域産業政策について、特に日本の概要を捉える。また、近年のデジタルの流れを背景とした地域ビジネスの変化について、事例等を通じて理解を深める。地域の特性に基づくイノベーションや新事業の創造について理解する。</p> <p>それにより、地域産業を取り巻く基本的な知識の習得とともに、学生自らが自身の関心に基づき、地域ビジネスについて自分の意見を言えることを目指す。</p> <p>本科目は、ショートレクチャーやリーディングアサインメント、それらに基づくグループディスカッション、そして最終レポートで構成される。受講者は、積極的にこの科目に参加することが望まれる。</p>
教育目標 ( 科目のねらい ) / Aims of the Course	<p>This course aims to help students acquire the following knowledge and attitudes based on them.</p> <p>(1) Important keywords for local industries (2) Important keywords for regional industry policy (3) Characteristic regional business model in recent years</p> <p>本科目は、学生たちが以下のような知識とこれらにもとづく態度を獲得することを目的とする。</p> <p>(1)地域産業を捉える上で重要キーワード (2)地域産業政策を捉える上で重要なキーワード (3)近年の特徴的な地域ビジネスモデル</p>

教科書 / Textbooks	Not specified 指定しない
教科書（続き） / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	Not specified 指定しない
参考書 / Reference Materials	This instructor will introduce during class 講師が授業中に紹介する  Richard Florida ( 2005 ) " Cities and the Creative Class " 和訳：小長谷一之訳『クリエイティブ都市経済論 地域活性化の条件』(日本評論社,2010年)
参考書（続き） / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	Nothing in particular 特になし
関連項目 / Related Subject	
注意事項 / Remarks	
備考 / Additional Information	【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業、行政、NPO法人代表、地域活性化伝道師などの実務経験を有する教員が、その経験を活かし、地域産業や地域ビジネスの基礎知識や実態、地域産業政策等について、事例を通して学び考える授業を展開する。

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	Introduction to the course イントロダクション	Students understand the outline of the course. In particular, students understand that they should deepen their interest in local industry and think about local business, and at that time confirm the principles of the SDGs. 本コースの概要や進め方を理解する。特に学生は,地域産業への関心を深め地域ビジネスについて考えるとともに,その際にSDGsの理念を確認する。	
2	Innovation and local industry イノベーションと地域産業	Students understand the importance of innovation in local industries. イノベーションと地域産業：地域産業におけるイノベーションの重要性を理解する。	
3	Regional industry policy 地域産業政策	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
4	Regional industry policy 地域産業政策	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
5	Agriculture 農業	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
6	Agriculture 農業	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
7	Manufacturing 製造業	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
8	Manufacturing 製造業	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
9	Service Industry サービス産業	Students understand the current status and problems. 現状と課題について知る。	
10	Service Industry サービス産業	Students learn through group work based on case studies. 事例を通じて学ぶ。	
11	General exercise 総合演習	Students discover regional problems. 地域課題を発見する。	

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
12	General exercise 総合演習	Students analyze regional problems. 地域課題を分析する。	
13	General exercise 総合演習	Students think of business models to solve problems. 課題を解決するためのビジネスモデルを考える。	
14	Summary まとめ	Students look back on this course and share their learning. 全体の振り返りと学びの共有。	

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods	Class participation 授業への貢献	Presentation プレゼンテーション	Report 期末レポート			
評価基準 / Evaluation Criteria	Comments and questions, active participation in group work, etc. 発言, 質問の積極さ, グループワークへの参画, など	Clarity and completeness of the presentation, etc. プレゼンのわかりやすさや完成度, など	Diversity of point of view, logical organization, appropriateness of citation of documents, writing style, persuasiveness of conclusion, etc. 視点の多角さ, 論理的構成, 文献引用, 文章の体裁の適切さ, 結論の説得力, など			
成績評価割合 / Pct.	100%	30%	30%	40%		

科目名 / Subject	持続可能な世界と私たち～SDGsの達成に向けて～（日本語） / 持続可能な世界と私たち～SDGsの達成に向けて～（日本語）
時間割コード / Course Code	L401J / Offered Language:Japanese
学部・学科 / Department/Course	ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科 / Department of Social System Design Social System Design Course
開講年度・期間 / Academic Year/Term	2025 / Spring
開講学年 / Year	4
開講クォーター・集中 / Quarter/Intensive	Intensive / Intensive
必修 / 選択 / Compulsory/Evelctive	必修 / Compulsory
曜日・時限 / Day / Period	
教室 / Room	教室 401, 教室 402, 教室 503 / Classroom 401, Classroom 402, Classroom 503
単位数 / Credit(s)	2.0
主担当教員 / Instructor in charge	有信 睦弘 / ARINOBU Mutsuhiro
科目区分 / Course Category	リベラルアーツ科目 実践科目
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	有信 睦弘 / ARINOBU Mutsuhiro (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)、保井 俊之 / YASUI Toshiyuki (ソーシャルシステムデザイン学科 / Social System Design Course)
オフィスアワー / Office Hour	Upon request of appointment from a student / 学生からのアポの申し出による
メールアドレス・研究室 / Email/Faculty Office No.	m-arinobu@eikei.ac.jp yasui@eikei.ac.jp Office 716 / 研究室 716 2F Office of President / 2階学長室
授業概要（学習内容）と方法 / Course description and Methods	<p>This course is an interactive class and a participatory class. Students will understand the current state of global social issues in the 4th year as a summary of all learning up to the 3rd year. And students will form a team with other students, they will show the ability to make problem-solving proposals as well as its skills as a total review. To be specific, this course invites experts of SDGs such as Peace, Partnership, People, Prosperity, and Planet as visiting lecturers. Their presentations and interactive classes will be held. Students will have individually presentation to identify social issues on the 5Ps theme selected through active learning methods. Students use the problem-solving techniques they have learned so far to propose solutions to those social issues.</p> <p>（和訳：本科目は、3年次までのすべての学びの総まとめとして、履修者が4年次にグローバルな社会課題の現状について理解し、他の履修者とチームを形成して課題解決の提案を行うことができる能力を、そのスキルとともに総復習として示す対話型並びに参加型講義である。具体的にはまず、SDGsの5Pである平和(peace)、共創(partnership)、人々(people)、繁栄(prosperity)並びに地球(planet)について、各問題に精通した専門家を外部講師として招き、履修者へのプレゼン並びに対話型授業を行う。さらに履修者は選択した5Psのテーマについて社会課題をアクティブ・ラーニングの手法により特定し、それまでに学んだ課題解決の技法を使ってその社会課題に対するソリューションを個人プレゼンテーションで提案する。）</p>
教育目標（科目のねらい） / Aims of the Course	<p>The goals of this course are as follows:(1) Students can actively utilize the knowledge of humanities, social sciences, and natural sciences that they have studied in liberal arts courses. (2) Students will acquire the ability to propose practical solutions to problems.</p> <p>（和訳：本科目の目標は、履修者が（1）それまでリベラルアーツ科目で学んできた人文科学、社会科学、自然科学の知識などを能動的に活用できること、（2）課題に対する実践的なソリューション提案ができる能力を体得すること、である。）</p> <p>Through the above, the student will acquire the competencies described in the attachment "Correspondence between Competencies and Subjects".（和訳：上記を通じて、別紙「コンピテンシーと科目との対応」に記載されたコンピテンシーを獲得する。）</p>

教科書 / Textbooks	No designated / 指定なし For reference only / 関心のある方に Dalby, S., Horton, S., Mahon, R. and Thomaz, D.(Eds.)(2019) The Sustainable Development Goals: Global Governance Challenges, London: Routledge.
教科書 (続き) / Other Textbooks	
上記のうち購入必須の教科書 / Textbooks which you have to purchase	None / なし
参考書 / Reference Materials	No designated / 指定なし For reference only / 関心のある方に Govindrajan, V., Trimble, C. (2012) Reverse Innovation: Create Far From Home, Win Everywhere, Boston, Massachusetts: Harvard Business School Publishing. Joachim, M. (2019) Governance for the Sustainable Development Goals: Exploring an Integrative Framework of Theories, Tools, and Competencie ' s, New York: Springer. Prahalad, C.K. (2009) The Fortune at the Bottom of the Pyramid: Eradicating Poverty Through Profits, Revised and Updated 5th Anniversary Edition, Upper Saddle River, New Jersey: Pearson Education, Inc. Publishing as Prentice Hall. Sachs, J.D. (2015) The Age of Sustainable Development, New York: Colombia University Press.
参考書 (続き) / Other Reference Materials	
履修条件 / Prerequisite(s)	Students enrolled in spring 2022 to enter their 4th grade year in April 2025 and ones enrolled in fall 2022 to enter their 4th grade year in October 2025. (和訳: 2022年春入学者で2025年4月に4年次に達する履修希望者、2022年秋入学者で2025年10月に4年次に達すると見込まれる履修希望者)
関連項目 / Related Subject	Peace Studies, Introduction to International Cooperation and Security, Introduction to Bioethics, Studies in Diversity and Multiculturalism, Regional Collaboration, Global Environment (和訳: 平和論, 国際協力・安全保障概論, 生命倫理学概論, 多文化共生社会論, 地域協働論, 地球環境論)
注意事項 / Remarks	やむを得ない事情及び体調不良で欠席を余儀なくされる場合の措置 やむを得ない事情でこの科目に出席できない者は、必ず事前に、春学期授業の履修登録期間中に、担当教員にメールでその旨申し出て、相談してください(担当教員メールアドレス: yasui@eikei.ac.jp)。 担当教員がその事情を相当と認めた場合には、その旨を申請した学生に代替措置を通知します。代替措置とは: 本科目に出講したゲストスピーカーの講義をオンデマンドで事後に聴講し、それぞれの講義ごとに感想を2-3行程度で記す、 自分が関心を持つSDGsのテーマについて、自らが解決したいと考える社会課題と解決策の提案をA4紙1ページ程度で書く(6月13日に行われる個人プレゼンテーションに相当する)、 とをMy Eikeiを通じて、2025年6月30日(月)までに担当教員に提出する、 との内容です。 なお、この代替措置を選択した学生は、 の評価は、個人プレゼンテーションのすべての学生の評価点の平均の評点となることにご留意ください(個人プレゼンテーションの評価は学生相互の360度評価でなされるが、代替措置を選択した学生は学生の相互評価を受けることができないため)。 体調不良で欠席した学生の場合も、この措置を適用します。

<p>備考 / Additional Information</p>	<p>1. 4年生対象の必修かつ集中科目で、2025年6月11日（水）1～5時限、6月12日（木）1～5時限、及び6月13日（金）1～4時限に実施される。</p> <p>2. 成績評価の50%は、6月13日(金)1～4時限の能動学習のコマで行われる個人プレゼンテーションに対する学生間の相互評価(360度評価)でなされる。6月13日(金)1～4時限の能動学習のコマで行われる個人プレゼンテーションについては、履修者がSDGsに関するテーマで自ら課題解決に取り組もうとしていることを選び、その問題意識の概略に関する個人プレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションに対し、講義参加者から質疑応答により、フィードバックをもらう。プレゼンするテーマは任意だが、その者が卒業プロジェクトのテーマに選ぶ見込みが高いものとするのが推奨される。なお、プレゼン及び質疑応答の一人当たり時間の割り振りは、日英各クラスの履修人数の見込みが立った時点で行う。）</p> <p><b>【実務経験を活かした実践的な教育について】</b></p> <p>国（中央省庁）や国際機関における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、SDGsの政策的含意や、SDGs目標に関する政策展開、国際的官民連携の取組等を扱うほか、SDGsの5Pである peace , partnership , people , prosperity , planetのそれぞれについて、各問題に精通した専門家を外部講師として招き、履修者へのプレゼン並びに対話型授業を行う。</p>
--	---

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
1	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #1 SDGs関連ゲストスピーカー#1	Guest speaker lectures on SDG-related topics, including an overview of the course contents. (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義、科目概要説明を含む)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
2	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #1 SDGs関連ゲストスピーカー#1	Guest speaker lectures on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
3	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #2 SDGs関連ゲストスピーカー#2	Guest speaker lectures on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
4	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #2 SDGs関連ゲストスピーカー#2	President's lecture on topics related to the SDGs. (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
5	World Café Session ワールドカフェ	Facilitated by instructors, a World Café session is held with the theme of "what we can do to create a sustainable future." (和訳: 担当教員からのファシリテーションにより、「持続可能な未来を創るためにわれわれができること」をテーマに、ワールドカフェを実施する)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
6	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #3 SDGs関連ゲストスピーカー#3	Guest speaker lectures on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
7	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #3 SDGs関連ゲストスピーカー#3	Guest speaker lectures on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関するゲストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
8	President's lecture 学長講義	President's lecture on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関する学長の講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
9	Instructor's lecture 担当教員講義	Instructor's lecture on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関する担当教員の講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
10	Guest Speaker Lecture on SDGs related topics #4 SDGs関連ゲストスピーカー#4	Guest speaker lectures on SDG-related topics (和訳: SDGs関連のトピックスに関する	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之

授業計画詳細 / Class Planning

回 / Class No.	主題 / Topics	学習方法と内容 / Contents and Methods	備考 (担当教員名等) / Remarks(Lecturers)
10		ストスピーカーの講義)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
11	Active learning through individual presentations of all class participants 全クラス参加者の個人プレゼンテーションによる能動学習	Individual presentations by participants and feedback from participants via 360-degree evaluation. the instructors moderate the session. (和訳: 履修者の個人プレゼンテーションを行い、参加者からのフィードバックを360度評価により行う。モデレーターは担当教員が務める。)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
12	Active learning through individual presentations of all class participants 全クラス参加者の個人プレゼンテーションによる能動学習	Individual presentations by participants and feedback from participants via 360-degree evaluation. the instructors moderate the session. (和訳: 履修者の個人プレゼンテーションを行い、参加者からのフィードバックを360度評価により行う。モデレーターは担当教員が務める。)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
13	Active learning through individual presentations of all class participants 全クラス参加者の個人プレゼンテーションによる能動学習	Individual presentations by participants and feedback from participants via 360-degree evaluation. the instructors moderate the session. (和訳: 履修者の個人プレゼンテーションを行い、参加者からのフィードバックを360度評価により行う。モデレーターは担当教員が務める。)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之
14	Active learning through individual presentations of all class participants 全クラス参加者の個人プレゼンテーションによる能動学習	Individual presentations by participants and feedback from participants via 360-degree evaluation. the instructors moderate the session. (和訳: 履修者の個人プレゼンテーションを行い、参加者からのフィードバックを360度評価により行う。モデレーターは担当教員が務める。)	Mutsuhiro Arinobu, Toshiyuki Yasui 有信睦弘、保井俊之

成績評価方法・評価割合 / Evaluation Methods and Criteria

成績評価方法 / Evaluation Methods		Class Participation (授業への貢献)	Presentation (プレゼンテーション)				
評価基準 / Evaluation Criteria		Attendance, comments and questions, active participation in classes 発言、質問の積極さ、出席	Individual presentation 個人プレゼン				
成績評価割合 / Pct.	100%	50%	50%				